

環境保全および社会貢献活動

二温度帯対応の鉄道クールコンテナの導入

デリバリー事業のヤマト運輸株式会社は、1基のクールコンテナで、冷凍・冷蔵の二温度帯に対応できる専用コンテナを日本貨物鉄道株式会社と共同で開発し、冷凍・冷蔵配送のクール宅急便で鉄道輸送を開始しました。これにより、一般の宅急便と同様のロール・ボックス・パレットの使用が可能になり、積載効率が約30%向上します。また、トラックを鉄道輸送に切り替えることにより、CO₂排出量を年間で約850t削減できる見通しです。さらに、近年は荷主である顧客企業でも物流のCO₂排出に対する関心が高まっていることから、ヤマト運輸株式会社では、2012年度までに宅急便1個当たりのCO₂排出量を30%削減する計画を立てています。二温度帯対応の鉄道クールコンテナの導入の取り組みは、平成17年度物流効率化推進事業費補助金交付決定事業として認定されました。

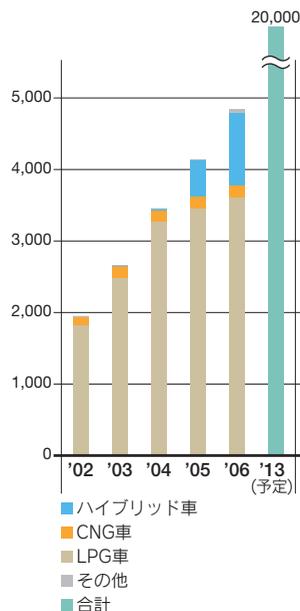


「ヤマト運輸 地球温暖化防止目標」達成へ向けて

1. 低公害の集配車両の導入

デリバリー事業のヤマト運輸株式会社では、目標達成の手段として「2012年度までに20,000台の低公害車導入」を掲げています。2006年3月期にはハイブリッド車501台をはじめとした708台の低公害車を導入し、累計の導入台数は4,843台となり、同社の全車両台数に占める低公害車総数の割合は11.0%となりました。また、ハイブリッド車のみならず、低燃費の軽自動車の活用にも取り組んでおり、宅急便センターから半径400~800mのエリアでは、CO₂、NO_x、PM排出量の削減に効果的な軽自動車の活用を積極的に進めています。軽自動車について

低公害車導入の推移

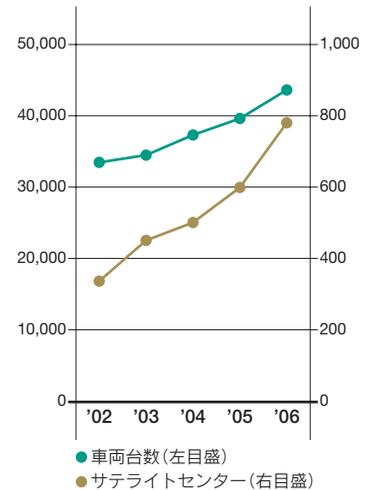


は、2012年度までに5,000台の導入を目標としています。同社では、今後もハイブリッド車を中心とした低公害車の積極的な導入を推進していきます。

2. サテライトセンターの出店を拡大

デリバリー事業のヤマト運輸株式会社は、目標達成へ向けたもう一つのアプローチとして、自動車を使用せず、台車(一部軽自動車)で集配を行うサテライトセンター出店の

サテライトセンターの出店数推移





拡大に積極的に取り組んでいます。これにより、市街地や住宅密集地域などエリアに応じた集配方法の選択肢が広がるとともに、荷物の増量に伴う車両台数の増加が抑制され、ひいては地球温暖化および大気汚染物質の排出量が削減される効果があります。目標では、2013年3月期までに累計1,000店のサテライトセンター出店を目指しており、これにより約1,500台の集配車両抑制効果が見込まれます。2006年3月末現在、全国に781のサテライトセンターを設置しており、今後も出店を加速していきます。

クロネコヤマト環境教室

当企業グループは、運輸会社として自動車を使用する企業の責任を認識し、事業を通じた活動を通じて地域社会への貢献を果たしていく目的でクロネコヤマト環境教室を

開催しています。この教室開催を通じて、次代の担い手である子どもたちへの環境教育に協力するとともに、グループ全体としても環境への意識を高めていきます。環境教室では、当企業グループの社員が指導にあたり、子どもたちへの環境教育を通して、社員も自らの環境認識、環境関連の知識を高めていくことが可能になります。教えるという行動を通して、社員も学び、環境保護活動を再認識し、なぜ当企業グループが低公害車導入やモーダルシフト、エコドライブ、そして台車集配などに積極的に取り組むのかを、子どもたちとともに理解してもらうのです。

教室では、「宅急便の仕組みと地球温暖化防止」をテーマとしています。なぜ、今、地球温暖化防止なのか、環境問題の中でも人類が直面している最重要課題であるこの問題を一緒に考えていきます。当企業グループにとっても温暖化の原因であるCO₂排出削減が急務となっています。社員は、温暖化防止策を宅急便の仕組みと合わせて指導していくことで、小学生に産業の勉強として学んでもらうとともに、環境保護活動の大切さを知ってもらい、一人ひとりの行動が重要であることを理解し、最終的には生活の再考につながるような取り組みを進めています。

子ども安全教室

当企業グループは、事業活動において常に「安全第一」を重視しています。中でも、子どもの交通事故防止は重要なテーマの一つです。1998年より開催しているこの活動は、2005年8月には累計参加児童数が100万人を突破、2006年5月現在、10,083回開催し、1,095,175人の子どもたちが参加しました。また、近年では小中学校に加えて養護施設や老人会などからも開催の要望をいただいております。今後は、さらに地域性を高めた活動を行うなど、当企業グループならではの地域貢献活動を行ってまいります。

